実践③　まんのう町立満濃中学校

資料⑨

第２学年２組　国語科学習指導案

１　日時　　令和４年１０月２６日（水）第３校時　２年２組教室

２　題材名　月夜の浜辺

３　題材について

（１）　本教材は、日本語のリズムや響きの美しさを味わうことのできる近代詩である。多用される反復、７音のリズムを感じながら、区切り方や間の取り方にも注意して音読させたい。また、捨てられない「ボタン」について、グループの対話の中から作者の想いに迫っていき、詩の中の一語一語を大切に味わう楽しさを培っていきたい。

（２）　本学級は、国語に対して「好き」と答える生徒が８割にのぼり、授業に対して積極的に取り組むことができている。しかし、内容について詳しく聞くと、小説教材に対しては７割の生徒が好意的に捉えているが、詩や短歌の学習に対しては半数の生徒が苦手意識を持っている。また、作品を作る（作文を書く、詩や短歌を作る）ことに対しても、半数の生徒が苦手と答えているが、昨年度からの作品作りを通して、少しずつ「書けた。」「楽しかった。」という肯定的な意見も増えており、徐々に書くことへの苦手意識が減ってきていると実感している。

　　　また、授業形態について聞いたところ、「先生の説明を聞く」ことに対して８５％の生徒が「好き」と答え、「友だちの意見を聞く」のも８割の生徒が好意的に捉えている。その一方で、「全員の前で発言する」ことについては８５％の生徒が苦手と答えており、「一人でじっくり考える」のも６割以上の生徒が苦手と考えているなど、受け身な態度が見受けられる。しかし、８割以上の生徒がクラスの雰囲気は「話しやすい」と感じており、少人数で話し合うことで自信をもって学習を進められる集団である。

　　　このことから、友人と協力する活動を通して読みを深め、人前で発表する体験を積むことで、今後の学習に意欲的に取り組めるように支援したい。

（３）　一人残らずどの子も学びを探求する学習空間の創造をめざして、次の視点で改善を図る。

＜探究活動＞　★作者の想いを踏まえて想像を膨らませ、『月夜の浜辺』を短編小説にさせる。

・言葉の一つ一つにこだわって作品を味わうことで、作者の想いに迫れることを学び、次回の

作品鑑賞に生かすようにする。

・まとめや振り返りを生徒の言葉で行う。

＜対話活動＞　★グループでアイデアを出し合い、表現することの楽しさを味わえるようにする。

４　題材の目標

（１）　反復や７音のリズムに注意して音読し、日本語のリズムや響きの美しさを味わうことができる。

（２）　ボタンに対する作者の想いを捉え、一つ一つの言葉にこだわりながら深読みをし、短編小説に書き換えることができる。

５　学習指導計画（全２時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 期 | 学習内容 | 時 | めざす資質・能力 |
| １ | ・リズムに注意しながら音読する。・表現技法を押さえる。・「ボタン」に対する作者の想いについて話し合う。 | １ | ・多用される反復、７音のリズムに注意しながら日本語のリズムや響きの美しさを味わう。（知識及び技能）・言葉の一つ一つに注目し、作者の「ボタン」に対する思いを考えることができる。（思考力、判断力、表現力） |
| ２ | ・「ボタン」に対する作者の想いを踏まえ、具体的な場面を想起しながら、短編小説を書く。 | ２（本時１/２） | ・作者の「ボタン」に対する想いや具体的な場面について班で意見を交流することにより、様々な見方を知ったうえで、取捨選択をして作品に仕上げることができる。（思考力、判断力、表現力） |

６　本時の学習指導

（１）　目標

・　作者の想いや具体的な場面について班で話し合い、さまざまな見方をすることができる。

・　話し合いを通し、「ボタン」に対する作者の想いを踏まえた短編小説を書くことができる。

（２）　準備物

　　　ｉＰａｄ、ワークシート（本文）、ＴＶ

（３）　学習指導過程（★主体的・対話的で深い学びにつなげるための工夫点）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 場面 | 形態 | 学習内容及び活動 | 予想される視点生徒の反応 | 指導上の留意点 |
| 導入 | 全 | １　前時の学習を振り返り、本時の活動内容を知る。 | ・　７音のリズムを大切に読めばいいんだな。学習課題：『月夜の浜辺』を短編小説(400~600字)にしよう。 | ・　前時で注目した言葉を振り返るよう助言する。 |
| 展開 | ４個 | ２　前時に考えたことを班で共有する。３　人物像、拾ったボタン、海の様子、月の様子など具体的に班で検討する。４　小説を書き始める。 | ・　作者にとって「ボタン」はどんな存在と言えるのだろう。・　なぜ「ボタン」が捨てられなかったのだろう。発問：作者の拾った「ボタン」はどんなボタンだったのだろう。・　拾った「ボタン」はどんなボタンだろう。・　「ボタン」はどこから来たのだろう？・　月は？海は？どんな様子だろう？・　ボタンを拾った人はどんな人だろう？・　漢字に迷わなくていいな。 | ・　この詩を小説化するために、どんなシチュエーションなのか、視覚的、聴覚的等広い視野で考える。★　どの言葉から、その想像が生まれたか、根拠を示しながら話し合いができるように助言する。・　話し合いが止まっている班には、ヒントカードを渡す。★　コラボノートを用い、あとで意見の交換がしやすいようにしておく。 |
| 終末 | 個 | ５　本時の振り返りをする。※振り返りシートに記入する。 | ・　友だちの意見を聞いてインスピレーションが湧いてきたな。 | ★　作者の生い立ちにも触れ、今後の読書活動や創作活動につながるようにする。 |

（４）　評価

 ・　グループで協力し、一語一語にこだわって作品を味わうことができたか。

・　「ボタン」に対する作者の思いを想像し、表現しようとすることができたか。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　資料⑩



資料⑪



ヒントカード



資料⑫





１人に１ページ割り当てられる。

制作の条件を最初に示しておく。

小説の設定を

具体的に考える。